

FrailtyFinder | 法人設立準備中

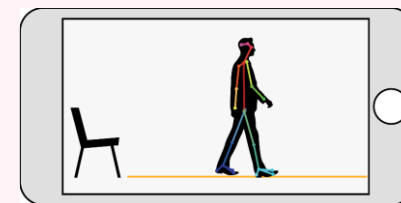
スマホ一台で、身体機能の低下リスク（フレイル）を誰でも客観的に評価・数値化可能なAIプログラム

✓ 技術の強み

スマホでの歩行動画撮影で、フレイル状態を1分以内で客観的に評価。
専門知識不要で、身体機能の変化や介護リスクを早期に把握可能

縦2m×横2mのL字型コースを歩く様子をスマホで撮影するだけで、AIが1分以内でフレイル状態を客観的に評価。専門的な評価者に依存しない統一基準で繰り返し測定でき、身体機能の状態や変化を把握可能。撮影場所・スマホのみで誰でも専門医レベルの客観的なフレイル評価をその場で実現。

関連特許 保有1件（特許権者／特許出願人：北海道大学他）



▲ フレイル判定プログラム
「FrailtyFinder」（イメージ）

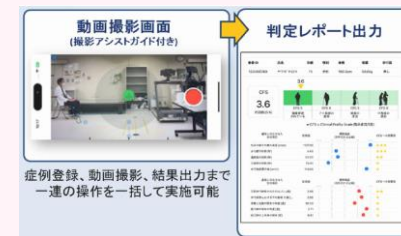
✓ 連携・活用例

大学病院・市中病院で400例以上の臨床評価を実施。専門医10名超のデータを学習したAIで、専門医と同等レベルの判定を実現

「自治体」—— 職員や保健師がスマホで撮影するだけで1分以内で判定可能。健診や健康イベントで大人数を効率的に評価し、早期発見や適切なフォローにつなげられる。

「医療・介護施設、スポーツジム」—— 高齢者等のリハビリや運動の成果を客観的な数値で見える化。利用者ごとの身体機能の変化を継続的に把握でき、プログラムの改善や利用者のモチベーション向上につながる。

「ヘルスケアサービス事業者」—— 科学的根拠に基づくフレイル評価機能を簡単に実装可能。既存アプリや健康サービスに組み込むことで、健康管理から介護予防まで対応した高付加価値サービスを提供可能。



▲ スマホ操作可能な
アプリケーション（イメージ）

希望する連携・協業

実証・共創

- ①自治体・医療機関・介護施設の健康イベント等での研究実証・活用検証
- ②ヘルスケア関連事業者との連携・協業による新規用途の拡大

特に連携したい業種

※下記に限らず幅広いご提案を受け付けます

自治体（保健福祉部門）

健診などでのフレイル評価技術の活用に関心があり、研究・実証用途での連携（※原則無償）を検討できる自治体

医療・介護施設、スポーツジム

リハビリ・運動前後のフレイルの変化把握に関心があり、研究・実証用途での連携（※原則無償）を検討できる施設

ヘルスケアサービス事業者

API連携可能な自社アプリ・開発機能を活かし、フレイル評価を組み込んだサービス開発に関心がある事業者